

これ、幼稚園のヒマワリと一緒にじゃん

刈谷市立重原幼稚園（愛知県刈谷市）

[5 歳児]

<取り組み>

5歳児は一人ずつ夏野菜と稲を育て、園の畑でサツマイモとヒマワリを育てている。そして、親子で観察をし、気付いたことや思いなどを「おやこすくすく日記」に書きとめている。

<幼児の好奇心や探求心が膨らむための保育計画>

親子栽培を通して「おやこすくすく日記」に記入された、幼児や保護者の気付きや発見、疑問などについて、保育者も一緒になって探求したり、保育の中で取り上げて活かしたりして、幼児が更に好奇心や探求心を膨らませるような働きかけをする。

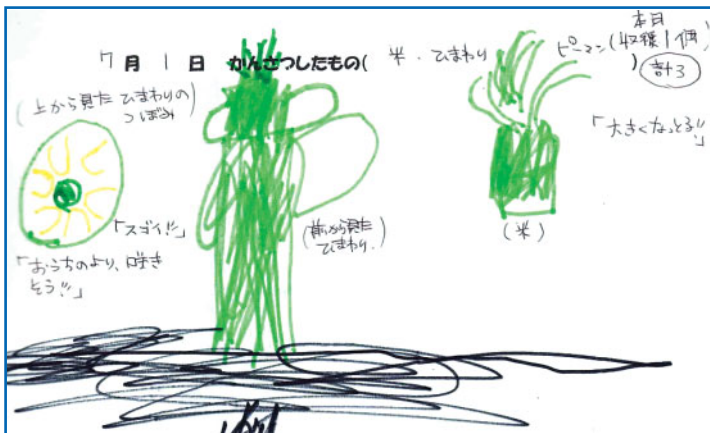
好奇心や探求心が膨らむ過程の視点

- 1 幼児が好奇心や探求心をもったり、好奇心や探求心が更に膨らんだりする
- 2 自分で考えて、納得いく方法を見つけようとする
- 3 豊かな原体験や感情体験を経験する
- 4 自分の思いを十分に表したり、イメージや創造性を広げたりする
- 5 遊びの中で友達の刺激を受けたり、つながり感を感じたりする
- 6 実感（満足感・充実感）として納得したり、考えたり試したりする楽しさを味わったりする
- 7 「もっとやってみたい!」「もっと知りたい!」と好奇心や探求心が更に膨らむ

◆友達の考えを聞き、いろいろな考えを巡らせながら、実際に自分の目で確かめて納得する事例

<幼児の姿と保育者の願い>

Y児は、上を向いているヒマワリのつぼみの様子に興味をもち、「おやこすくすく日記」の中で「上から見たヒマワリのつぼみ」「前から見たヒマワリ」を絵に表した。（下図）そこで保育者は他の子どもたちも、思いを巡らせたり疑問を抱いたりするように、Y児の発見を保育の中で取り上げた。そして、実際に自分の目で見て確かめて、納得する体験をすることで、更に好奇心や探求心が深まるようにしたいと願った。



「これどうなってるの?」

7 / 2

保育者=㊦

㊦ ①「今日は、Y児の『すくすく日記』を紹介するね。Y児はヒマワリの花のことを書いたんだよ。こんなふうになってたんだって」とすくすく日記を見せる。

U児「え?これどうなってるの?」と不思議そうに言う。

S児「普通ヒマワリの花は、こうなってるよねえ」と言い、花びらが開いたひまわりの様子を空中に指で描く。周りの幼児「そうそう」「こういう形だよ」と口々に言う。

㊦「Y児にもう少し詳しく聞いてみようか」と話し、他の幼児らがうなずきY児に注目すると、Y児「上から見たら…」と話し出す。

U児「え?上から?上から見たの?」と驚いたように言う。他の幼児も「えー?」と驚いた表情を浮かべたり友達と顔を見合わせたりする。疑問に応えられるように㊦「上から見たの?」とY児に尋ねる。

Y児「うん。だって、こうなってたから、上から見たの」と両手首をくっつけて手の平を上に向けながら、手で花の様子をやって見せる。そこで、㊦ 同様に手で花の形を作り、「こう?こう?」と手を動かして、いろいろな角度に動かす。

Y児「こう!」と手をしっかりと上に向けて、花の形を作る。Y児と同じように手で花の形を作り、保育者のようにいろいろな角度に動かしたり、手で作った形を作り上からのぞいたりする幼児がいる。

S児「でもさ、ヒマワリってお日様が好きだから、お日様の方を見るんだよ」と納得いかない様子で言うと、R児「そうそう、確かそうやって聞いたよ」と自分の知っていることを話す。するとY児は、少し自信なさそうに「咲いてる時は知らんけど、上向いてたもん」と言う。そこで、㊦「まだ咲いていなかったのかな?」と尋ねると、Y児「う〜ん、まだ開いとらん。ちょっとは開いてるけど」と言うが、他の幼児は、Y児の言っている意味がわからなかったり納得いかなかったりして困った顔をする。㊦「ちょっとずつ開いて、咲いていくのかなあ…」と疑問を投げ掛けると、Y児「たぶん」と答える。幼児らは「えー?」「すげえ!」「見たい!」などと口々に言う。

A児「見に行こう」と言い、帽子を取りに行く。他の幼児も次々に「俺も行く」「私も見たい」などと言いつつ見に行く。すると、ほとんど蕾で、少し開き始めたヒマワリがあり、その花の様子を見て、U児「本当じゃん。上向いとる」と驚く。

A児「上向いてるし、ちょっとだけ咲きそう」と、興奮した様子で、大きな声で話す。他の幼児も「本当だ」「不思議だな」「びっくりした」という様子で珍しそうにヒマワリを眺めている。S児「だって、お日様の方を見るんだよ。だってそうなんだもん」と納得いかない様子。そして、また明日もヒマワリを見に行く話になる。

「これ、幼稚園のヒマワリと一緒にじゃん」 7 / 3

次の日の朝、クラス全員で畑に行く。

R児「先生、見て。昨日はここまでしか咲いていなかったのに、今日はここまで咲いてる！」と一番先に見たR児は、発見したことを急いで伝える。

①「本当だね。昨日より咲いてるね」と一緒に驚く。

R児「Y児やS児たちにも知らせてくる！」と呼びに行く。

Y児は、ヒマワリの所へ来て嬉しそうに「本当だ。昨日よりたくさん咲いてる」と眺める。S児「あっ、昨日と違う！先生ほら、昨日はあっち向いていたのに、今日はこっち向いてる。やっぱりお日様が好きなんだよ」と興奮して言う。①「本当だ。昨日と向きが違うね。今はお日様の方を向いてるね」と言う。S児「やっぱり俺の言った通りだった」と満足そうな顔をする。

その日の給食後、②数人が集まって図鑑を見ていると、ヒマワリの箇所を発見する。

R児「あっ！！これ、幼稚園のヒマワリと一緒にじゃん。やっぱり、ちょっとずつ咲くんだった」

Y児「本当じゃん！」と興奮気味に、自分たちが見たことと同じことが書いてあることを喜ぶ。

U児「あっ、これ見て！S児が言っていた通りじゃん」

Y児「ねえ、S児見て！S児の言っていた通りだったよ」とS児を呼ぶ。図鑑の『花が咲くまでは、茎が太陽に合わせて東から西へ向きを変えます』という箇所をもう一度みんなで読み、納得した表情を浮かべる。

また、図鑑には<ヒマワリの中に小さい花がある>ことが書いてあり、③帰りに畑に確かめに行くY児の姿があった。後日畑に行った時には、Y児「俺よりもすごく高くなっている」、S児「葉っぱや茎がチクチクする。小さい毛が生えている」などと、更にヒマワリをじっくりと観たり、発見したことを積極的に友達に伝えたりする姿も見られた。数日後、Y児の「おやこすくすく日記」には、更に好奇心や探求心を膨らまし、葉や茎にも関心をもって、見たり、触ったり、匂いをかいだり、他の野菜と比べたり、葉っぱの小さなひげに親子で感動したりする様子が書かれていた。

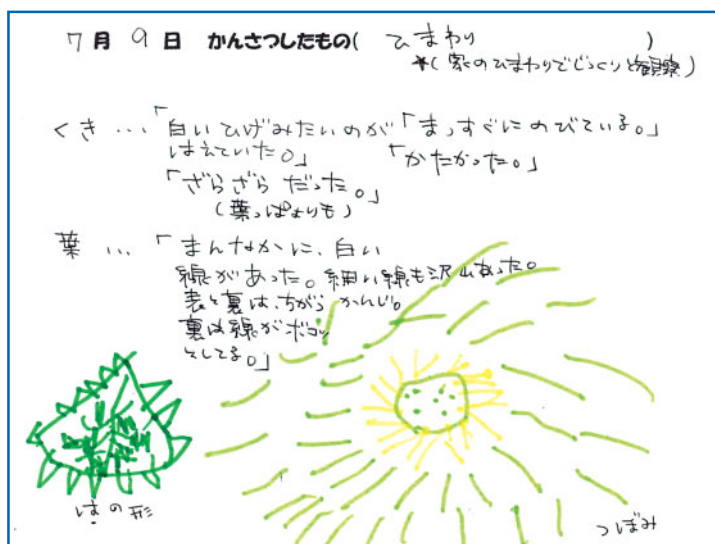
＜事例から分かったこと＞

- ・「おやこすくすく日記」から、①のように、一人の発見をクラスみんなに投げかけたことで、Y児の疑問を理解しようとしたり、そこから、それぞれが、新たな疑問や考えを抱いたりした。友達のいろいろな意見を聞く中で、自分なりの思いや疑問を友達に

伝えようとしたり、何だか腑に落ちず、納得いかない思いを味わったりしていた。こうして、いろいろと考えを巡らせながら、自分の目で見たり、絵本や図鑑を見たりして「やっぱりそうだったのか」と確信する喜びを味わったり、本に書いていることをまた、自分の目で確かめてみたくなったりする姿は、更に好奇心や探求心が膨らんでいたと捉える。

②のように、自分の目を見たことを図鑑で調べ“やっぱりそうだ”と確認したり、“次はこうなるのかな？”と予想したことを図鑑と自分の目との両方で確認したりして、交互に活用すると“わからなかったことがわかる”“もっと知りたい、確かめたい”という気持ちが強くなることを把握した。幼児自身が疑問を解決する手立ての一つとして、絵本や図鑑等を活用して調べるということを、実体験したことは、更に今後活かされていくと思われる。身近な場や自分たちで探せる所に図鑑や絵本がある環境の大切さを改めて感じた。

③のようにY児のその後の姿から、Y児は今回の経験で、更に好奇心や探求心が膨らみ、葉や茎を、触ったり、匂いをかいだり、他の野菜と比較したりして、ヒマワリに強く興味をもっていったことが伺われる。Y児の発見を担当が捉え、クラスで話し合ったり、保護者がY児と同じように一緒になって、Y児の好奇心や探求心に心を寄せて心を動かしたりすることが、Y児が更に好奇心や探求心を膨らませる支えになっていると思われる。今後は、花だけでなく、茎や葉や種などに更に好奇心や探求心を膨らませている様子も紹介したり、広めたりして「もっと知りたい！」気持ちをかき立てていきたい。



ポイント

子どもが思うままに描画を楽しむ姿も園庭の動植物に関心をもつ姿も日常的な場面で見られます。しかし、ねらいをもって栽培をし、保護者と「おやこすくすく日記」を楽しむというプランがあったことで、どちらも共通の目的をもった取り組みになり、一人の子どもの気付きや表現が、クラス全体の子どもの疑問や発見、学びにつながっています。子どもや保護者の実態に応じた環境や取り組みができるプランがあることで、保育者主導ではなく、子どもたちの意欲的な取り組みになり「科学する心」の育ちに結び付いています。